

鳥取県知事
平井伸治様

提言書

平成29年11月20日
とっとり創生若者円卓会議

はじめに

私たち「とっとり創生若者円卓会議」では、7月に全体会議を開催し、鳥取県の地域課題について意見を出し合い、その後意見の中からメンバーの関心の高い「子育て・女性活躍」「情報発信・観光」「地域づくり」をテーマとして3グループに分かれ、それぞれ議論を重ねてきました。

各グループでは、それぞれのテーマの現状を把握しながら、日常生活で感じている問題点を抽出し、どうしたら解決につながるのか、また、解決するために何をすればいいのか、何ができるのかについて意見を出し合いました。

議論の中では、各グループに共通した課題として「情報発信」について多くの意見が出ました。県などの行政が実施する施策や事業について、とても効果的なものであったとしても、残念ながらそれらを知らない県民が多くいることに気がつきました。とっとり創生若者円卓会議として、県には一層の情報発信をお願いすると同時に、私たちがより県政に関心を持ち、私たちから発信していくことがなにより重要であると感じました。

そしてこの度、とっとり創生若者円卓会議で出された様々なアイデアの中から、3つの施策テーマ別に具体的な施策を提言します。

提言内容は、まだまだ未熟で小さな事かもしれませんが、それが最初の一步だと信じ、少しでも鳥取県の活力ある未来へつながる一助となることを願います。

1 子育て・女性活躍について

〔提言〕

- 育児中のお母さんたちが、子どもを連れていても楽しく集える場所を探し、発信すること。

【課題解決のための具体的方策】

- 県の育児関連情報（施策）をより手軽に入手できるようホームページなどを工夫する。

（メンバー自ら実践）

- 円卓会議のメンバーが、子どもを連れて行きやすいお店や施設などをリサーチし、自らその経験を積極的に発信していくことで、子どもを連れて集える場所を発掘し広めていく。
- Instagram で特定のハッシュタグを作成し、Twitter と連動させた形で発信することにより、リアルタイムで情報を発信していく。また、県からもこのハッシュタグを広くお知らせし、賛同者に同じハッシュタグを使って発信してもらうことで発信力を高める。

- お父さんが家事や育児にもっと参画するように、さらなる機運醸成を行うこと。

【課題解決のための具体的方策】

- お父さんたちが育児手法などを学びやすくするため、「家族一緒になって参加することができる研修会（セミナー）」を開催するなどの工夫をする。
- 育児中のお母さんのストレスを軽減し、気兼ねなく社会で活躍できる環境を作るために、家事や育児の分担について夫婦・パートナー間で話し合いやシェアしあえるよう意識啓発をすすめていく。

【提言の背景】

県では平成22年度の「子育て王国とっとり」建国以降、子育て関連施策を強化・拡充し、育児中のお母さんたちに対して幅広い支援体制を構築している。その一方で、そういった支援までとはいかなくても、育児中にちょっと息抜きをし、ママ友とおしゃべりをするなど、気分転換をしたいときがある。

現在では、「子育て応援パスポート」に協賛したお店も多くなり、子どもを連れて気軽に入れるお店や施設など様々なサービスを受けられるところも増えてきている。育児中のお母さんたちが「気軽に」繋がりあえるそんな場所や環境を更に増やしていくこと、そして広く知ってもらうため、積極的に発信していくべきである。

また、育児をしていく中で、自分のための自由な時間を持つことや、自己の活動をするときなどに「ためらい」や「うしろめたさ」などの感情を抱いてしまうお母さんたちもい

る。お母さんの育児に関するストレスを軽減させ、解消させるためには、まずは家族の理解が不可欠であり、特にお父さんの力がとても重要であることは間違いない。家事や育児の負担がお母さんに偏りがちな現状の中で、お父さんに家事や育児に積極的に関わってもらえるよう、家族で家事を分かちあうとともに、お父さんがスキルアップできる体制をさらに充実すること、そして同時にお母さんがリフレッシュできるような企画の実施が必要である。

【メンバーの意見】

- 育児中のお母さんたちは他のお母さんなどとの「繋がり」を求めている。
- 行政的（相談）窓口はもちろん重要であり、子育てカフェなども整っているところ（伯耆町など）もあるが、もっと気軽にお母さん同士が繋がりがあえる空間がたくさんになるとよい。
- オシャレなカフェなどで子どもを連れて息抜きをするために入店しようと思っけていても、子どもを連れていくことで入店をためらったりすることもしばしばある。入店した時に、子どもがモノを汚しても、泣いても、騒いでも理解してもらえるお店が増えると育児中のお母さんはとても助かる。
- 「子育て応援パスポート」について、県のホームページなどにお店の情報が掲載されているが、最新の情報がどうか分かりにくい。利用者目線でリアルタイムに発信していくことで情報が新鮮になり、気軽に出かけることができるようになると思う。
- 県の子育て関連情報はホームページやFacebookなどで多く発信されているが、必ずしも見やすいページとはなっていないと感じる。欲しい情報が手軽に入手できるようキーワードで簡単に検索できるようにするなど、工夫が必要だと感じた。もっと見てもらえるような発信の仕方考えた方がよいと思う。
- 育児をしていく中で、自分のためだけの自由な時間を持つことや、自己の活動をするときなどに「ためらい」や「うしろめたさ」などのマイナスの感情を抱くお母さんたちもいるのも事実だと思う。
- お母さんの育児に関するストレスを解消させるには、家族、特にお父さんがスムーズに育児に参加できるように、お父さんの育児に関するスキルアップさせることが必要であり、加えて料理などの基本的な家事についてもお父さんが学べる環境をより多く作って行くことが重要だと思う。
- 育児中のお母さんが社会で活躍できるためには、家事や育児の負担について家族や夫婦の間で、その現状を理解することや共有することが必要だと思う。
- お父さんに子守をお願いして外出しても、ちょっとしたことでお母さんにすぐ連絡がくる。お父さんが基本的な家事や育児ができれば、お母さんはとても気が楽になる。
- お父さんだけが対象の家事や育児の研修・セミナーを実施しても、参加しにくいと感じるお父さんもいる。
- 家族みんな（お父さんも、お母さんも、子どもも）が一緒に参加できるセミナーがあると良い。お父さんは家事や育児の意識向上やスキルアップ、同時にお母さんはリフレッシュすることができたら参加しやすいと思う。

2 情報発信・観光について

〔提言〕

- 鳥取の玄関口となる空港・JR主要駅に、交流・情報発信スペースの充実・コンシェルジュの配置など、おもてなしや情報発信の強化を行うこと。

【課題解決のための具体的方策】

- 鳥取を訪れた旅行者等が、旅行者同士や地元住民との交流を図ったり、情報収集・交換ができる交流・情報発信スペースを設置する。
- 鳥取の楽しみ方や周遊方法等の提案ができるコンシェルジュの設置などおもてなし体制を整える。

- 鳥取へ来ないと写せない、写したくなる“インスタ映え”画像による情報発信をして、鳥取県のイメージアップを図り、“行ってみたい！”県になるよう盛り上げていくこと。

【課題解決のための具体的方策】

- 空港やJR主要駅、各観光地の情報発信スペースで、「こんな写真が撮れます」という形で見せる。
- 「その場に行って自分を入れて撮ってみたい」と思わせる写真をSNSで発信していく。
- 人を入れた“インスタ映え”写真コンテストの実施や、観光ガイドの写真を人が映っているものにする、写真撮影スポット集を作成するなど、「インスタ映え」や「人が見える」発信を意識的に行う。

【提言の背景】

近年の観光の目的のひとつに、ただその土地を訪れるということだけではなく、旅行先で人との交流を期待していることがある。鳥取県には県外から、また海外から多くの観光客が訪れるようになってきているが、その窓口となっているのは鳥取の顔ともいえるべき空港やJR主要駅である。

今後、さらに県内観光を促進していくためには、県の玄関口である空港やJR主要駅について既存の機能だけではなく、旅の目的の一つとしての「交流」を更に一層深めるためにも、また県内観光の総合的な窓口として、観光客に対して鳥取をより知ってもらうためにも「おもてなし」の要素を強化する必要がある。

さらに、観光分野においてもSNSでの発信は近年かなり重要なツールであり、鳥取にしかない風景に「自身」を投射し、一体化した画像を撮りSNSを使って発信することで、

行ってみたい県になるように盛り上げていくことができるのではないかと考えた。

【メンバーの意見】

- 駅や空港は観光客の玄関口であり、おもてなしを伝えるべきところである。
- 現状、交通案内表示等、分かりにくく迷っている旅行客をよく見る。
- 平成30年（7～9月）は、山陰デスティネーションキャンペーンがあり、JRと連携した取組を行うには適したタイミングである。
- 県内のJR主要駅では、観光案内機能のみで、情報収集・交流するスペースがない。
- 有料でもよいので、空港や駅にレンタルスペースも欲しい。
- 旅行先の決定に口コミは重要。旅先での人との交流は、その重要な要素となっている。
- 県外や海外からの観光客は、SNSや口コミをもとに旅行先を決める傾向だと思う。
- 「っていう自分」という「人を入れた」インスタ画像の発信が誘客に繋がると思う
- 特に若者は、インスタ映えを求めての旅が増えている。
- 観光地等に写真のおもしろ撮影の提案等があると盛り上がり、滞在時間の延長に繋がるのではないかと。
- 県内インスタ映え集の作成・配布や、観光ガイドをインスタ映えするものに置き換えていったらどうか。

3 地域づくりについて

〔提言〕

- 若者から若者への双方向の情報発信が自然に広がり、ネットワーク化され、地域づくり活動の活性化に繋がっていくような取り組みを行うこと。

【課題解決のための具体的方策】

- 若者から若者への情報発信は効果的である。県内大学生や、県外学生（本県出身者、来県経験者等）の有志が集まりチームを編成して、鳥取で体験した自然、地域、人、企業、行政等に関する情報を集約し、その集約した情報を他の学生に向けSNSや口コミ等の方法により情報発信する活動に対する支援を行う。
- 地域づくりに参加したい学生と地域とを結ぶことで、若者の視点による様々な地域づくり活動へつながるような自由度の高い取り組みを行う。

- 潜在的には地域づくりに興味がありながら、今一步を踏み出せないでいる方々を取り込み、実際の活動に繋げていく仕組み作りを行うこと。

【課題解決のための具体的方策】

- 潜在的に地域づくりに興味がある層が一定数見込まれる大学等の協力を得ながら、大学等に出向き、地域づくり活動を紹介する出前講座を行う。
- “今一步を踏み出せないでいる”方々を対象にした「地域づくり活動“お試し”体験ツアー」等を実施する。

- 地域づくり活動についての情報が、伝達したい対象に効果的に伝わる工夫を行うこと。

【課題解決のための具体的方策】

- 若者は、様々な情報をスマートフォンなどで得ていることから、このような端末で容易に情報を得ることができるよう、名刺やチラシなどにQRコードを印刷するなど工夫する。
- 若者へ伝えたい情報は、そのサイズをはがき大にしたり、若者にアピールするデザインを用いるなど工夫する。

【提言の背景】

鳥取県は、平成26年3月に鳥取県民参画基本条例が制定され、その基本理念として「県民と県との協働による地域づくりの推進」を掲げている。また、本県はボランティア活動の年間行動者率が全国的に高位で推移しており、そうした鳥取県ならではの人と人、人と地域との絆の強さが、地震や大雪等の災害にも負けない、安心して暮らせる地域づくりに繋がっているものと思われる。

その一方で、地域づくり活動に興味を持ちながら、今一步を踏み出せないでいる方がいること、また地域づくりに関する情報も十分と言えるまでには行き渡っていないという状況も見受けられた。

これを受け、本県における地域づくり活動の更なる活性化のためには、学生等若者が自分たちの多様な交わりの中で、様々な体験や活動等を主体的に情報発信・交換していくことが必要であると考えた。

【メンバーの意見】

- 地域づくりの様々な取り組みをもっと活性化させるには、情報提供の際に広報対象毎に手段を変えていく等工夫が必要である。
- 地域づくり活動への参加は「友人が参加するから」、「知り合いから聞いたから」といったきっかけが後押しとなる場合がある。
- トットリズムのサイトや県民活動活性化センター等地域づくりのための既存のツールがもっと周知され、活用されるための取り組みが必要である。
- 具体的な地域づくり活動の情報が若者の間で自然に広がってゆくような取り組みが必要である。
- 地域づくり活動への意欲や興味があっても、なかなか一步を踏み出せない状況の方がいる。ゼミやサークルで地域に入る学生はいるが、そういったきっかけが無ければ、地域との接点は無い。
- 潜在的に地域づくりに興味がある層は存在しているので、こうした層を取り込み、実際の活動に繋げていく仕組みが必要である。

平成29年度 とっとり創生若者円卓会議 構成員名簿

(五十音順)

氏 名	所 属 等
うらた ゆうじろう 浦田 佑次郎	中部話場サークル 代表
おたざわ ひろき 織田澤 博樹	学校法人鶏鳴学園 青翔開智中学校・高等学校 副校長
かげもと あつし 景 本 篤史	株式会社鳥取銀行
かわおか まこと 河 岡 誠	河岡農園株式会社 代表取締役
きむら みき 木村 美紀	米子商工会議所青年部
ごとう じゅんいちろう 後藤 潤 一 郎	鳥取大学地域学部 3回生
さなだ みゆき 真田 美幸	鳥取県漁業協同組合福部支所 素潜り漁師
さわだ ゆうた 澤田 雄太	公立鳥取環境大学経営学部 2回生
しらいし なつき 白 石 夏季	一般社団法人大山観光局
すぎもと かずゆき 杉 本 一 孝	湯梨浜町商工会青年部
たかのぶ さやか 高 信 彩也香	鳥取大学地域学部 2回生
ちくま あきこ 知久馬 彰子	ちくま旅館 若女将
なかい みずほ 中井 みずほ	Tottori Mama's 代表
なかむら るみ 中 村 瑠美	おひさま2525八頭 代表
なかやま さおり 中 山 早織	打吹公園クリニック
にしお ともこ 西尾 朋子	株式会社山陰合同銀行
にしむら つむぎ 西 村 紬	鳥取大学地域学部 2回生
ふるみ しゅうすけ 古海 修 祐	道の駅「奥大山」 駅長
やました やよい 山 下 弥生	鳥取青年会議所
やまね まさる 山根 智	砂丘会館
ゆきもと ただよし 行 本 忠 義	公立鳥取環境大学経営学部 3回生

計21名